

米国北西部のオレゴン州ポートランド。「全米で一番住みやすい街」と称される地方都市のライフスタイルに注目が集まっている。環境や食材に配慮し、家族や友人との交流を大切にす

る暮らしから生まれたファッションや食への評価は日本でも高い。商業関係者の現地視察も増えており、来年以降もポートランドの影響を受けて商品やサービスが登場しそうだ。



「オリジナルパンケーキハウス」。連日、家族連れや30〜40代の女性客でにぎわう。全米でエリー7店を展開する同店はポートランドが本店だ。現地では家族や友人らがゆったりと食事を楽しむ憩いの場となっている。生地は昔ながらの天然酵母を使い、3日間発酵させたもの。バターやソースも毎日店で手作りする。「ふんわりと軽く、どこか懐かしい素朴な味」。吉祥寺の店でパン

丸井吉祥寺店(東京都武蔵野市)に6月に開業した米国のパンケーキ店

ポートランド印、日本へ

「全米で一番住みやすい街」流行追わず、生活豊かに



ポートランドでは売り上げよりも友人や知人との信頼関係を重視したゆったりとしたカフェが多い

ゆったりとしたカフェ

ケーキをママ友とシェアしていた地元40代主婦は食事とおしゃべりを楽しんでいた。温暖な気候に恵まれ、山や海、川など豊かな自然に囲まれたポートランドは人口約60万人。環境に配慮した自転車通勤や地産地消の食文化が定着し、職人による手作業の服飾雑貨を発信するなど古き良き時代の米国のライフスタイルが色濃く残



天然酵母のパンケーキ



東京都武蔵野市のオリジナルパンケーキハウス吉祥寺店ではポートランドの本店創業時の写真が飾られている(写真上)。オープンで焼いたパンケーキ(同下)



雑誌「キンフォーク」が監修したブランド「アウアー」の展開について会議する担当者(東京都港区のアクタス青山店)

着心地の良い衣料

松本大地氏は商業施設、アパレル関係者らを集めた現地視察ツアーを6年前から毎年開催し、参加者は増加傾向にある。ポートランド市民のライフスタイルが「日本での先端的な消費スタイルのお手本。現地で店舗開発のヒントを探ろうという意欲は強い」と見る。モノからコトに消費の主役が移る日本で、ポートランドのライフスタイルは様々な場面に広がりそうだ。(遠藤邦生)

る街として知られる。ポートランドはコーヒーを楽しむ街としても有名だ。4月に開業した東京・代々木のカフェ「パドラーズコーヒー」は農園にこだわったコーヒー豆を自家焙煎(ばいせん)する現地のコーヒー店「スタンアタウン・コーヒー・ロースターズ」から豆を輸入している。ポートランドへの留学経験もある店主の松島大介さん(28)は「現地で売り上げよりも友人や知人との信頼関係を重視したゆったりとした店が多い。自分もそんな店を目指したい」と話す。ポートランドのライフスタイルを紹介する雑誌も日本で目にするようになった。ポートランド拠点の「KINFOLK(キンフォーク)」は年4回発行の季刊誌で、家族や商業コンサルタントの

友人との親密な時間の過ごし方を多彩な写真と記事で紹介。広告や商品クレンジットは載せず、一見すると写真集の趣だ。2011年に創刊。日本では6月に翻訳版が発行され、毎号約4万部を販売する。日本語版は1500円と高めたが、代官山葛屋書店(東京・渋谷)ではライフスタイル誌でトップレベルの売れ行き。「クリエーターの購入が自立つ」という。キンフォークは衣料や雑貨の新ブランド「Our(アウアー)」を監修し、来年2月から生活雑貨店のアクタス(東京・新宿)などで発売する。